

第 1 回 世田谷区本庁舎等における区民利用・交流拠点施設事業運営委員会			
開催日時	令和 8 年 4 月 7 日 (火) 午後 6 時 3 0 分 ～午後 8 時 3 0 分	場所	梅丘パークホール
出席委員 (敬称略、五十音順)	委員	学識経験者	曾田委員長、齋藤副委員長
		団体	柴田委員、松田委員
		行政	中西委員、伊藤委員 (事務局)
		区民委員	岡委員、土屋委員
欠席委員	福岡委員		
事務局	市民活動推進課	榎本係長、杉藤	
	運営事業者	上遠野施設長、本田副施設長 栗本、山下、松下	
来賓	区長 保坂 展人		
議題	(1) 報告案件 ①準備委員会から委員会への引継ぎ事項 ア. 施設運営にあたっての確認事項 イ. 準備会での主な議題 ②委員会のスケジュールと主な議題について ③利用システムについて (2) 審議案件 ①準備会から委員会への引継ぎ議題 ア. 愛称募集 (案) について イ. オープニングイベントの検討 ウ. 令和 8 年度事業計画の共有・承認 (3) 次の日程等		

○事務局・伊藤市民活動推進課長：

本日はお忙しい中、ご出席いただき、誠にありがとうございます。

お時間となっておりましたので、ただいまより第1回田谷区本庁舎等における区民利用交流拠点施設事業運営委員会を開催いたします。

私は本委員会の事務局であり、委員を務めます世田谷区生活文化政策部市民活動推進課長の伊藤です。

本委員会の委員長を皆様を選任いただくまでの間、進行を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

まず、会を始めるにあたりまして、本日は保坂区長が来られております。本日は公務のため、冒頭のみ参加となりますが、区長より皆様にご挨拶をいただきたいと思っております。

○保坂区長

～ご挨拶～

○事務局・伊藤市民活動推進課長：

区長ありがとうございます。大変恐れ入りますが、区長はここで退席させていただきます。

それでは4月より運営事業者の皆様も運営に関わっていただいております。これから一緒に施設を運営してまいりますので、ご紹介、ご挨拶をお願いしたいと思います。それではJCDさんよりお願いいたします。

○運営事業者・JCD栗本：

ご紹介いただきました、事業者2社で構成させていただいております。代表企業を務めます、JTBコミュニケーションデザインの営業担当の栗本と申します。どうぞよろしくお願いいたします。では、本日、同席させていただいておりますエリアマネジメント第一事業局局長大西でございます。課長の荒木でございます。私、栗本と同じく営業担当をさせていただきます佐藤でございます。よろしくお願いいたします。すでに前回準備会でもご紹介させていただいておりますが、初めての方もいらっしゃると思いますので、改めまして、統括責任者となります上遠野でございます。尽力させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局・伊藤市民活動推進課長：

ありがとうございます。続きまして構成企業の世田谷サービス公社さんよろしくお願いいたします。

○運営事業者・世田谷サービス公社山下

世田谷サービス公社と申します。JTBコミュニケーションデザインさんのパートナー、構成企業として運営に携わらせていただきます。本日参りましたメンバ

一をご紹介させていただきます。弊社代表取締役の田中でございます。第一事業部長の西原でございます。そして私が新たにこの区民利用・交流拠点運営のために設立いたしましたコミュニティ支援担当課の責任者となります、山下と申します。よろしくお願いいたします。

副施設長を務めさせていただきます本田、同じく拠点で本田のサポートとして務めさせていただきます松下でございます。本日こちらのメンバーとなります。よろしくお願いいたします。

○事務局・伊藤市民活動推進課長：

ありがとうございました。続きまして、資料の確認をさせていただきます。座席表以降の資料1から資料10までまとめてございます。本委員会は、世田谷区本庁舎等における区民利用・交流拠点施設事業運営委員会設置要綱に基づき設置しております。議事につきましては、議事録を作成し、皆様に確認いただいた上で、会議資料とあわせ、氏名を含め、区のホームページ等で公開いたします。また、議事録作成のため、録音や写真撮影もさせていただきます。あらかじめご承知おきください。なお、本日は設置のカメラを通してオンラインによる傍聴を実施しております。傍聴されている皆様には資料は持ち帰らないよう、オンラインの皆様はコピー等しないようお願いいたします。

それでは、委員のご紹介に移ります。資料1の名簿をご覧ください。

武蔵野美術大学造形学部視覚伝達デザイン学科名誉教授 齋藤委員です。

跡見学園女子大学マネジメント学部マネジメント学科教授 曾田委員です。

東京農業大学地域環境科学部造園科学科教授 福岡孝員ですが、本日は公務の都合により欠席となっております

NPO法人まちこらぼ代表理事 柴田委員です。

NPO法人せたがや子育てネット代表理事 松田委員です。

区民委員 土屋委員です。

区民委員 岡委員です。

なお、準備会議委員でありました世田谷コミュニティ財団の福永さんにつきましては、運営事業者より再委託を受け、マッチングコーディネーターとされましたため、この度委員会委員から外れる形となりました。ご承知おきをいただきますようお願いいたします。なお、後任の方につきましては、事務局で検討させていただき、副会長、会長にご相談した上で、次回委員会でお示しできればと考えております。

続きまして、生活文化政策部長 中西委員です。

改めまして、生活文化政策部市民活動推進課長 伊藤でございます

次に事業局職員を紹介させていただきます。市民活動推進課担当係長の榎本、担当の杉藤でございます。皆さん、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは資料2の世田谷区本庁舎等における区民利用・交流拠点施設事業運営委員会設置要綱をご覧ください。本委員会は、10名の委員で構成されております。本日、委員9名出席を頂いておりますので、要綱第5条第2項に規定する委員2分の1以上の出席を満たしているため、本日の会議は有効となりますことをご報告いたします。

会長、副会長の選出

○事務局・伊藤市民活動推進課長：

続きまして、委員長、副委員長の選出に移ります。要綱第4条をご覧ください。第4条では「委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。」と規定しております。

こちらについて事務局からご提案がございますのでご説明してもよろしいでしょうか。

○全委員：

異議なし。

○事務局・伊藤市民活動推進課長：

ありがとうございます。事務局の案としましては、令和6、7年度に開催しました準備会にて会長を務めていただいた曾田委員を委員長に、同じく準備会で副会長を務めていただいた齋藤委員を副委員長にお願いしてはどうかと考えておりますが、いかがでしょうか。

○全委員：

異議なし。

○事務局・伊藤市民活動推進課長：

ありがとうございます。それでは曾田委員に委員長、齋藤委員に副委員長をお願いいたします。曾田委員、齋藤委員、どうぞよろしくをお願いいたします。それでは曾田委員長よりご挨拶をお願いいたします。

○曾田委員長：

はい。保坂区長からのお話で、2年半前の準備会にご出席いただいたとのことでしたが、私は令和4年から一連の委員会に関わらせていただいております。今年度いよいよオープンという時期を迎えることになりまして、本日からまた多くの方にご協力いただけることになりました。

新しいチームの発会式、あるいは結団式というような雰囲気、緊張を覚えるとともに大変楽しみにしております。新しい視点で活動の拠点、交流の拠点ができることを期待しております。皆様のご協力をよろしく願いする次第です。また今年度の運営事業委員会から、区民委員で土屋委員と岡委員に参加いただいております。新しい視点でいろいろ意見等を出していただければと思います。よろし

くお願いいたします。

○事務局・伊藤市民活動推進課長：

はい、ありがとうございました。齋藤副委員長からよりご挨拶をお願いいたします。

○齋藤副委員長：

齋藤です。私も準備会の時から、また区役所の基本構想検討の時から数えるとても長い間携わらせていただいておりますが、とうとう参加している委員の皆さんのみならず、様々な活動などに参加していただいた区民の方々が描いた区民交流、区役所と区民の協働の拠点としてのスペースが完成するというところで、いかに運営していくか、活用していくかというところに差し掛かったというところですよ。

緊張しておりますけれども、委員長と協力して運営していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

○事務局・伊藤市民活動推進課長：

ありがとうございました。これより進行を曾田委員長にお願いしたいと思っております。また、合わせて事務局進行を区から運営事業者さんにお任せしたいと思っております。ではよろしくをお願いいたします。

会議の進め方について説明

○曾田委員長

それでは、議事を進行いたします。次第の5. 会議の進め方についてです。事務局よりご説明をお願いいたします。

○本田副施設長：

はい、これより、事務局進行をさせていただきます。私は世田谷サービス公社の本田と申します。11月にオープンします交流拠点の副施設長を拝命されましたので、頑張ってやっていきたいと思っております。どうぞよろしくをお願いいたします。それでは資料3をご覧ください。会議の進め方について、区事務局とも事前協議をし、3点ご提案させていただきます。

1つはラウンドテーブル方式等を取り入れた話しやすい雰囲気づくりの導入です。2つ目は進行、運営方法の変更です。準備会などでの区事務局一問一答形式を廃止し、合議制による運営方式の導入を目的とし、進行は会長、事業者が会議の組立の事前調整を区と行い、会長の進行のフォローを行います。区事務局は各委員と同じ立場で必要に応じて発言を行います。例としまして、これまでは区事務局が対案を用意してそれにご意見を頂く形が多かったですが、議題に対して委員会としての方向性をとりまとめていくといったイメージになります。最後3つ

目として、オープニングイベント参加団体の調整状況の共有についてです。こちらは委員の皆様が進捗状況を随時把握できるように、また会議の直前の大量の資料の送付を避けるため、コミュニケーションアプリを導入して調整状況を把握できるようにしたいと考えています。

会議の進め方の説明は以上です。

○曾田委員長：

はい。ありがとうございました。新しい進め方でやりましょうということですので、自由にご意見を出していただくということで進めていきます。質問なのですが、3のアプリの利用について、少々大きめのグループではありますが、進行状況が逐次分かるようにするということですね。今日の会議だけではなく、何回かこれから運営委員会や、部会がありますので、その時に紙の資料を配布という従来の方法ではなく、普段からデジタルにて提供されるということでしょうか。

○伊藤委員：

そういうことでございます。

○曾田委員長：

今の会議の進め方についていかがでしょうか。

○全委員：

異議なし。

○曾田委員長：

ありがとうございます。6. 議題に入っていきたいと思います。報告案件と審議案件に分かれております。資料が大変多くありますので、分からないことがあれば、次第の方に戻っていただいて、今どこの話が確認しながらお聞きいただければと思います。それでは、(1) 報告案件から説明をいただけますでしょうか。

(1) 報告案件

① 準備会から委員会への引継ぎ事項

○本田副施設長：

はい。それでは報告案件について順次ご説明させていただきます。まず「① 準備会から委員会への引継ぎ事項」です。こちらについては区より説明をお願いします。

○伊藤委員：

はい。資料4をご覧ください。

この資料は、施設の運営にあたり、根幹となる事項を明確化し、様々な事項を決定する上での軸とし、また委員や区職員が交代してしまっても、これまでの検討の積み上げを継承していくことを目的に準備会にて作成したものです。今回委員

会が新たに始まるにあたり、改めて確認をさせていただきたいと思います。

資料左側については、区役所本庁舎の整備基本構想の基本方針、また交流拠点施設の基本計画、事業運営推進計画をまとめたものになります。右側の運営にあたっての確認事項をご覧ください。

まずNo.1では、原則無料で、予約不要で利用でき、また営利利用も可能な場としています。

No.2では、魅力的なイベントを実施し賑わいを作り、また気軽に立ち寄れる場作りとしています。

No.3では、ルールは固定化せず、トライアンドエラーが可能な施設運営としています。

No.4では、新たな活動へのチャレンジや活動のバージョンアップ、マッチング支援をしていくとしています。

No.5では、区民、団体、区職員がオープンな活動に参加し、交流や協働を育んでいくとしています。

No.6では、区と運営事業者が中心となって、区民、団体、区をつないでいくとしています。以上の6つの確認事項を踏まえて施設の運営を考えていきたいと思えます。

続いて、「イ.準備会での主な議題」についてです。資料5をご覧ください。令和6年12月から先日の2月まで、計5回開催した準備会で議論してきた内容について、こちらにまとめております。これら準備会での議論を踏まえて、本日の委員会につながっているという流れとなっております。詳細は後ほどご覧いただければと思います。説明は以上です。

②委員会のスケジュールと主な議題について

○本田副施設長：

続いて「②委員会のスケジュールと主な議題について」です。資料6をご覧ください。まず上段が当会議である委員会について、その下2つが、今後始まります部会について記載しています。委員会と部会はそれぞれ連動しながら進んでいきます。

左上の4月7日第1回委員会が本日の議題です。

その下、5月に区民活動・交流部会が始まります。ここではオープニングイベントの企画参画検討、オープニングイベントを区民参加で決めていく利用憲章案の検討、活動時のゴミ対応など、共通の課題を設定したオープニングイベント時の取り組み、テーマ設定、広場でのマルシェに利用するシェード作成の検討、などを議論できると良いと考えています。

同じくその下の5月に、みどり部会もスタートとし、オープニングイベントのみ

どりに関連する活動の企画参画検討、屋上の区民花壇の区民参加事業を検討していきます。

次に区民活動部会の部分、7月のところをご覧ください。5月の部会に続いて部会を実施します。同時並行でオープニングイベントに参加する団体とは随時調整を進めていますので、それを受けて7月に部会を実施します。部会では引き続きオープニングイベントに関する内容について検討を進め、合わせて上から2つ目のところ、翌年令和9年度のイベント、(仮称)市民活動フェアの検討も始めます。その下のみどり部会も同様の議題で7月に実施予定です。

上の委員会、8月のところをご覧ください。委員会では、5月、7月での部会での検討の報告を受けながら、令和9年度の事業計画や、仮称市民活動フェアイベントの検討を行います。またオープニングイベント以降、区民参加で決めていく愛称募集案を議論し、施設の事業運営方針も策定していきます。

そのような流れでまずは11月の施設開設、オープニングイベントに向けて検討を進めていくといった流れです。オープニングイベント以降の2月、3月の部会、委員会の議題については資料右側に記載のとおりです。説明は以上です。

「③利用システムについて」は、区より説明をお願いいたします。

③利用受付システムについて

○伊藤委員：

それでは資料7-1をご覧ください。

「1利用受付システムについて」ですが、こちらは団体さんが施設を活動で利用する際の受付システムについての説明になります。調整中ですが、現在区の公式LINEを活用した、分かりやすい誰もが気軽に使いやすいシステムの検討を進めています。詳細は後ほどご説明します。

次に「2利用受付スケジュールについて」です。今年の8月に団体さんあてに利用案内を送付、9月からの予約受付開始に向けてスケジュール案を作成しました。詳細は後ほどご説明しますが、概要として、基本的に1年後の利用について一括受付を行います。具体には、区民交流スペース等の交流拠点施設は、世田谷区民会館の予約受付に合わせて受付を行い、区民会館の抽選後、結果を踏まえて利用調整を行い決定します。なお、「一括受付後の随時受付」については、先着とはせず、1か月単位で申請を受け、利用調整のうえ決定します。

では資料7-2をご覧ください。こちらが区の公式LINEのメニュー画面で、予約ボタンを押していただくと交流拠点施設予約メニューが表示され、そこから申請画面に入っていくイメージです。

次のスライドです。一問一答形式のわかりやすい入力で、予約日や時間帯などを入力していきます。空き状況も確認できるようにします。また利用者に向けたプ

ッシュ通知機能も使えます。

次のスライドです。活動で利用する際は、まず団体登録をしていただきます。利用団体さんは、まずLINE上で団体登録申請を行います。そうすると真ん中のシステムを経由して右側の管理者に情報がいき、内容確認を行います。そして登録許可をし、左上の利用者に登録完了通知がいくといった流れになります。ちなみにLINEがご利用できない方については、以下の通り紙での申請も可能です。

次のスライドです。

こちらは登録をしていただいた団体さんが、施設を利用する際の予約受付フロー図です。なお、団体さんの会議や打ち合わせなどは、空いてれば予約不要で利用可能ですので、ここでいう予約とは、事前周知があり、会場の事前確保が必要なイベントなどの利用の場合の、事前予約の流れをご説明となります。

ではまず左側、利用団体さんはLINE上で事前予約申請を行います。それを管理者が確認して、その他各団体さんから来た申請を合わせて利用調整を行います。管理者は利用調整結果を利用団体さんあてに通知します。（なお、利用料金が発生する場合、利用当日にキャッシュレス決済手続きか、または現金払い手続きを行います）

次のスライドです。こちらは、事前予約について、LINEシステムを使用できない場合の窓口による申請フローを示したものになります。

続いて資料7-3をご覧ください。

こちらは施設の利用受付のスケジュールを示したものです。上から、公用申請と書かれたものが区の事業の申請スケジュールで、その下が団体さんの申請スケジュールです。なお、参考に一番下に世田谷区区民会館の申請スケジュールも示しています。区民会館は条例施設ですので、受付システムが異なっています。

ではまず資料上の公用申請の6月のところですが、令和9年度1年間の区の事業の申請受付を6月に先行して行います。それを受け調整し7月、8月で利用を決定していきます。なお、区の8年度事業の申請は今年1月に決定済みとなっています。

次に資料中央の部分をご覧ください。団体さんの申請ですが、システムを構築中ですので、利用受付はこれからとなります。まず利用受付システムを4月から7月の間で構築しまして、8月には利用案内を作成します。そして9月から利用受付を開始します。オープニングイベント後の11月24日以降の利用について、まず上の緑のところですが、区民会館とセットでの利用は1年後の10月まで受付を行います。これは資料一番下の区民会館の受付スケジュールと合わせています。その下のオレンジのところですが、区民会館とのセット利用でない場合、例えば区民交流スペースや広場などの利用の場合は、9月に11月24日から令和9年3月までの分を受付します。

次に11月のところをご覧ください。11月に、区民交流スペース等の単独利用

分の令和9年4月から8月分の受付を行います。続いて12月に令和9年9月から令和10年1月分の受付を行います。

令和9年1月のところをご覧ください。1月には1年後の2月分について受付をするといった形で、以降1年後の1か月分について順に受付をしていくといった流れになります。スケジュールについての説明は以上になります。

○曾田委員長：

はい。ご説明ありがとうございました。

今日初めてご参加いただいている委員の方も含めて、今までにどこが問題になっていたのか、ご不明点などなんでも結構です。ご質問やご意見はございますでしょうか。

○土屋委員：

まず、先ほどご紹介いただいた通り、第1回から初めての参加となります。これまでのご議論の背景などを把握できておりません。基本的な質問となることご理解いただけますと幸いです。ご質問させていただきたいのは1点、素人的に気になった、自分の直感と違うなって思ったところが、利用方法についてです。予約してから実際に利用するまで結構ラグが生じると感じました。これまでのご議論の中で、実際の利用までのラグが生じている背景やシステム的な理由がもしありましたら、そのあたりをご説明いただきたいです。

○伊藤委員：

ありがとうございます。よろしく願いいたします。

基本的に利用にあたっては予約不要で、そのままお越しいただける流れが前提で、貸館施設ではないということです。貸館で利用するのはけやきネットであり、それは基本的に事前予約が前提になります。

基本的に予約なしでふらっと来ていただき、たまたまそこにいた方との出会いなどが想定できる施設を目指しています。

今回予約できるものについては「〇月〇日〇〇で■■■を行う」という日程を事前に決めないと周知ができないイベントに関して、予約をしていただく必要があります。そのような意味で、事前に決まっているものを事前に予約してくださいという立て付けです。

仮にお客様も多くいないという場合は、周知はしつつ予約しないという方法もあるかもしれません。ご自身で利用状況を見て、来ていただけるかなと思います。

タイムラインで事前に決めるものについて、このような利用のタイミングがあってもいいだろうという議論になりました。

○曾田委員長：

ありがとうございます。事前に予約して、そこから準備をするところも踏まえていると認識しました。ありがとうございます。

はい。柴田委員、お願いします。

○柴田委員：

そもそもの話になってしまうかもしれませんが、今のお話の延長線上で、今後活動をしたいと思った方や全く施設を知らない方が資料4（利用方法）を読んだ際に、伊藤課長がおっしゃった「全く予約不要で原則無料で営利利用ができる場」という箇所に関して、そこまでの理解ができないのではないのでしょうか。

予約不要となっているのに、1年も前から予約しなければいけない。そもそも予約しないでふらっと来て交流の拠点にしたいという話は、以前も市民活動をこれからやりたいっていう方が集まった時や少人数でもふらっと来て、自分の活動を発表したいという意見があった。そこから出てきた「予約しないで使える拠点」にしてほしいと希望があり、この言葉がずっと残ってきていると思います。

「予約しないで使えます」、「空いてたら使えます」という前提を毎回言う必要が出てくる「空いていれば利用可能」という表現は、利用条件が正確に伝わらないおそれがあるため、より分かりやすい表記への見直しが必要と考えます。運営事業委員として、改めて考えると予約不要ということ、果たして詳細まで言う必要があるのでしょうか。

○岡委員：

私も本日初めて参加させていただき、これまでに議論している中で失礼な発言になら申し訳ありません。予約不要ということをポジティブに捉える方もいれば、逆に行ってみないと使えるかどうか分からない場所という印象にもなる。

場所が世田谷区役所という話になると、住んでいる方でも最寄り駅から結構歩き、行ってみたら「すみません、今日は使えません」という可能性を考えると、予約をきちんとして場所を確保できている方が安心して利用できるということではないのでしょうか。

予約は当日も可能なので、当日でも利用でき、ちゃんと場所を確保して、それに向けて自分で何か準備をして、発表するというのではないのでしょうか。

一方で、先ほどありましたように、利用団体にもある程度しっかり年間スケジュールを組んで活動されている団体さんや、個人の趣味の延長で発表される方が、1年後の発表に向けて、1年程前から予約することは利用ハードルが高い。

もう少し予約フォームの期間を3か月後など短い方が、より小規模な利用者にとってはハードルが低く、幅広く利用してもらえるのではないのでしょうか。

○柴田委員：

ふらっときて使える場所もあるため、そこも使いましょうということだと思います。同時に区民交流拠点は予約して使える部屋と予約なしで使える部屋があるということを確認していただきたい。LINEで申し込むというのでも必要だと思います。LINE等で今日は空いてるかというのが分かりやすくなり、空き条件が確認できる。簡単に確認ができ、空いていれば拠点に行こうと思ってもらえるのはいいのかなと思います。

もう一つ、運営にあたり確認事項6項目を今の予約不要や気軽に立ち寄れる、そ

れからトライアンドエラーが試せるという自治の場所にしていくという目標は非常にレベルの高いところを目指していることとなります。

自治のことを誰がいつどこで皆さんにご説明するのか、項目に追加してほしいです。事業者がリードして、皆さんをサポートして、運営すべてを事業者が行うというように見受けられる。利用する人たちの意思が重要であり、他とは違う施設を目指していることをわかるようにしてほしいです。

○齋藤副委員長：

とてもハードルが高い自治的運営というのを目指し、今まで準備会でも、その前の運営基本計画のところから委員の皆さんが話し合ってきているところです。実験的に使ってやってみようということだと思のですが、そのようなことを含めて、今度のオープニングイベント企画または部会活動の中で、憲章を作成していくのはどうでしょうか。

世田谷区が作るのではなく、運営委員会や部会、実行委員会が様々なことをやる中で言語化していこうとしているので、そのようなことがプラスされると良いと考えます。

○松田委員：

拠点まるまる1個を予約ではないと考えるので、予約した利用団体の横でふらっと来て利用している人がいればいいのではないのでしょうか。そういう工夫をするのが一つと、もう一つはけやきネットと圧倒的に違うことがあります。けやきネットは不特定多数の利用はできません。つまり、団体で借りるから団体のメンバーで使うだろうと、不特定多数の人たちには使えないことになっています。自由に参加できるという意味では、団体の人たちはすごくありがたいと思う。

けやきネットについてもルールが厳しくなっている気もするので、区民利用・交流拠点はそうではない。「団体利用」という言い方が非常に気になります。少人数で活動している団体の人たちにとっては、予約なしで利用できる施設があることはありがたいため、そういう人たちのためにも展開していきたい。施設に来る人へ、活動していたら参加していいよ、ということきちんと伝えないと、勘違いされてしまうのではと感じます。

○伊藤委員：

そうですね。単なる貸館ではないという表現は今までも言ってきました。もう少し言葉を足していかなければいけません。若者部会の若者に、地方の公民館みたいなイメージであるという説明をした際に、その方が分かりやすいと意見をもらったことがあります。若い利用者にも伝わりやすい言葉にする必要があります。利用憲章を作成の際にはアウトプットを皆様からお知恵をいただきながら行っていくと思っています。この資料は、基本となるブレない部分のみをまとめたものであり、内容自体を大きくアップデートしていくというよりは、今後は「利用憲章」「利用ルール」「利用案内」などを別途整理・追加していく想定です。特に利用憲章については、「日々どのように使うのか」「どんな人がどのように活用

できるのか」といった具体的な使い方を示す内容になると考えています。また、実際の運用の中で得られた気づきや個々の良かった点なども反映していく余地があります。

その中でも最も重要なのは、事実ベースで網羅的に整理していくことであり、その内容をきちんと項目として落とし込み、研修としても整備していく必要があります。特に初めて利用する人にとっては、これらの説明がないと理解が難しいため、本日の会議内容を踏まえて必要に応じて追記していくものと考えます。

○柴田委員：

今日の会議はワークショップ形式ではないのでしょうか。

○本田副施設長：

後半の審議事項で形式変更します。

○伊藤委員：

すみません。報告事項と審議事項とを分けているのは、報告事項の方はすでに議論をしており、それに対する結果、未達だったところを報告していただくという流れです。あまり本質的な議論を実は想定していませんでした。

○曾田委員長：

私も委員会の中でこれまで話し合ってきた理念とかビジョンなどをそのままの言葉で外に向かって区民利用の際にアピールするのは情報が足りないかもしれないということで、ご指摘があった通りだと思います。

それからゾーニングということかというと、施設の性格が大型の複合文化施設というとらえ方では足りないかもしれません。区民交流施設も入っており、一括で施設の利用方法として説明することは無理があるため、オープニングイベントを21日間やってみて、大型文化施設としての利用と、自由度の高い小規模な区民参加型の利用の双方を実施比較し、すべて一緒に並行して成立するというところをご理解いただくことが必要だと思います。

言葉での説明だけではなく、実際に物事が動いてみて、そこに来ていただいて、次に自分もやってみようと思ってもらうための循環の中から理解し会得していただくということではないでしょうか。そういうための利用憲章も追加していくということで、委員会としても宿題が増えた、新たな宿題をいただいたということだと思います。

他に皆さんよろしいでしょうか。

○全委員：

異議なし。

○曾田委員長：

それでは、6. 議題（2）審議案件に移ります。事務局より説明をお願いします。

(2) 審議案件

①ーア. 愛称募集(案)について

○本田副施設長：

これからワークショップを開きますが、その前に少し長いですが説明させていただきます。

では資料8をご覧ください。「ア. 愛称募集(案)について」についてです。なお本日は次のオープニングイベントの議論の時間をより多く確保するため、こちらの愛称募集については説明のみとし、次回8月の委員会にて議論する時間を作りたいと思いますのでよろしくお願いします。

こちらの資料ですが、今年1月に準備会の委員の皆様にご事務局案としてお示したものです。施設の愛称は施設がオープンする11月以降より、区民の皆さんに施設を実際に利用していただきながら考えていただき、9年の4月から使っていくとしまして、まずは11月から検討してもらうにあたってベース案としてつくったものがこちらになります。

まず施設を大きく3つに分けて愛称をつけたいと考えています。青塗が屋内スペースとして、一階の区民交流スペースと2階の区民交流室を仮称で『協働ラボ』としています。次に黄色塗が屋外スペースとして、広場、ピロティを仮称で『協働スクエア』としています。3つ目が屋上スペースで、6階の屋上庭園を仮称で『協働ガーデン』としています。

また施設全体の名称として仮称で『協働プレイス』としています。以下に齋藤委員から以前いただいたご意見を掲載させていただいておりますが、名前のつけ方は色々なケースが考えられますので、こちらを次回議論して利用者の方が参加しやすい愛称募集の枠組みを決めていきたいと思っております。

①ーイ. オープニングイベントの検討

続いて次第のイ. オープニングイベントの検討についてです。次に資料9をご覧ください。こちらはオープニングイベントの全体スケジュール資料です。2段目、「オープニングイベントの参加申込団体、区公用事業との調整」ですが、昨年11月に募集を開始して、先日の3月4日にイベント参加団体さんとリモートで説明会、意見交換会を行いました。今後は、今日の委員会での検討を踏まえて、4月中に参加団体さんと対面で顔合わせ、交流会を行い、企画内容を具体化していきます。

その下、愛称募集は先ほどご説明したとおりです。一番下の利用憲章については、施設の意義や理念を理解いただくためのもの、禁止事項ではないものを施設に掲示していきたいとして、オープニングイベント期間中に区民参加のワークショップを開催して作っていきたく思います。こちらは5月から始まる部会で検討していきたいと考えています。次に資料9-2をご覧ください。こちらは11月イベント期間中の区役所庁内の申請状況一覧です。こちらは調整中の資料です

ので非公表とさせていただきます。

次に資料9-3をご覧ください。先ほどお話ししました3月4日に行ったイベント参加団体さんとの意見交換会の様子をまとめたものです。2内容のところ、冒頭はイベントの目的などをご説明し、(4)(5)で参加団体さんの紹介や意見交換を行いました。3で主な意見をまとめています。(1)テーマ設定やキャッチコピーについては、「区役所でつながろう」や、参加団体に確認してもよい、ある程度漠然としたテーマ設定があるとよいなど意見がありました。

(2)マッチング方法や今後の進め方については、今後はテーブルごとに小人数でつながる機会があるとコラボが生まれやすい、各団体の参加希望日時や期間を共有できるとよいなど意見がありました。

今後のスケジュールですが、本日の委員会でイベントの方向性を決めつつ、4月中に参加団体さんと交流会を行います。5月、7月には様々なネットワークを持つメンバーが参加する部会でも検討を進めます。参加団体とは随時イベントの企画検討、調整を進めていき、8月には委員会があり、11月にオープニングイベントを実施するといった流れになります。

最後の資料、9-4をご覧ください。こちらはオープニングイベント参加団体さんの一覧で非公表資料です。

資料の説明が長くなりすみません。今日の委員会では、オープニングイベントを実施するにあたって、参加団体さんとの調整や今後始まる部会も含めて、意見を出しながら委員会としての大きな方針、方向性を決めていければと考えています。

これからグループ討議に入りますが、席が少し遠くないでしょうか。机を寄せて委員の皆様のお顔がよく見えたほうが、良い意見がたくさん出そうな気がします、いかがでしょうか。

○全委員：
異議なし。

グループ討議

<座席移動 1テーブルに>

○曾田委員長：

それでは、ここからの審議案件は「公用事業」と「団体活動」、「運営事業者」で行われるものと3種類ほどあり、それぞれ相当数アイデアがすでに寄せられています。内容により人数が多く集まるイベントも非常に多く計画されており、同じ場所に何千人が集まる催しがあるということは、その場に居合わせるとすごく迫力を感じるのではないのでしょうか。

今まで行われたことがなかった事業が区役所のスペースで行われ、新しい使い方ができ、自分たちの団体の活動の場を広げることにもなるということで、非常にインパクトがある運営が可能なのではないかと思っております。

今のところ公用事業とそれぞれの団体の持ち込みのイニシアティブでやれる事業がございますが、開催事業のミックスについて何かお考えがあればご意見ください。

○本田副施設長：

それでは、今後交流拠点の副施設長を務めます、本田が進行を務めます。進行補助としてJCD栗本、書記は山下と松下が務めます。

まず、新しく委員になられたお二人、岡さんと土屋さんになぜ応募されたのか自己紹介も含めてお願いいたします。

○岡委員：

今回応募させていただいた岡と申します。普段はサラリーマンをしております。私も世田谷在住で、一人暮らしも含めて10年以上世田谷に住んでおり、こういう活動に興味を持ち始めたのは子どもが生まれてから地域情報誌を読むようになったことがはじめです。情報誌から様々な活動を知る中の一つに、このような委員会があるということを知り、興味を持ちました。世田谷区役所も新しくなることに対して、自分が何か協力できたらなと思い、応募させていただきました。よろしく申し上げます。

○土屋委員：

改めまして、土屋と申します。よろしく申し上げます。私が参加させていただいた理由といたしましては、関西出身で学生のころから世田谷に10年ほど住まわせていただき、世田谷に住む人も環境も結構様変わりしてるなと感じています。外国人の方々もおり、その中で、このような応募案内ハガキをいただきまして、自分自身も関心を持って世田谷が魅力的になっていく一区民として一助になればいいなと思って僭越ながら参加させていただきました。よろしく申し上げます。

○本田副施設長：

ありがとうございます。それでは他の委員の方も一言だけよろしいでしょうか。

○松田委員：

世田谷子育てネットの松田です。住まいが北沢なので近所です。世田谷に住んでいる年数は15年くらいです。出身は隣の渋谷区で、道路を挟んで印象が違いますね。最初の子育てを三重県で経験していることから、その違いを感じながら現在は子育て支援に携わっています。申し上げます。

○中西委員：

生活文化政策部の部長の中西です。実は20年ぐらい前に同じ仕事をしていました。住まいは実はすぐ近くです。歩いて3分ぐらいのところに住んでいます。よろしく申し上げます。

○伊藤委員：

はい、伊藤です。市民活動推進課長やっております。千歳船橋あたりに住んでいるのですが、千歳烏山のあたり、千歳村エリアということで、市民活動をやらせていただいています。いろいろ実践している立場としての意見も言っていきたいと思っております。よろしくお願ひします。

○上遠野施設長：

はい。上遠野でございます。よろしくお願ひいたします。今まさに皆さんにご議論いただいている、新しくできる施設の施設長を務めさせていただくこととなります。ぜひ皆様に支えていただきながら、いろいろなことを試していきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

○柴田委員：

柴田です。よろしくお願ひします。事務所は山下駅の駅舎で、お店もやっております。世田谷区にもう40年ぐらい住んでおります。岡さんや土屋さんのような方々が世田谷区の92万人の中のマジョリティです。マジョリティがここにはいないところから、若い方々にもここに参加していただくということで、応募していただきました。マジョリティの方々の参加したいイベントをここでやらないと皆さん来ないです。だから、そういうことをここでやりつつ、市民活動のやりたいこともやりつつ、マジョリティの方にいかに足を運んでいただけるかということをしてぜひ、岡さんと土屋さんには、率直な意見をいただきたいという希望を持っております。よろしくお願ひします。

○齋藤副委員長：

齋藤啓子と申します。私もここら3分ほどの、非常に近いところに住んでいます。小さい頃は桜丘に住み、その後札幌や三鷹、そして世田谷に戻り、子育て中に4回も梅丘の中で転居を繰り返しました。まちづくりの仕事を世田谷区役所と世田谷トラストまちづくりで20年ほどやっておりましたが、その後学校の先生になると朝早く出て、夜遅くしか帰ってこない生活をしていました。今からは地域密着の生活になるのではないかと期待しているところです。どうぞよろしくお願ひいたします。

○曾田委員長：

私は地元とは関りがなく大変申し訳ないような気持ちがございますが、三茶まちづくりの委員会に呼んでいただき、その流れでこちらにも参加し、もう5年目になります。皆さん本当にチャレンジングで、いつも勉強になっております。

○本田副施設長：

皆様コメントありがとうございました。それではこれからのご意見を伺いたいと思っております。進め方ですが、委員一人の発言をあまり長く時間を取らず、他の委員の方との、掛け合いを第一に進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

まず、オープニングイベントについて、現在多くの参加団体からの応募がありま

す。このオープンイベント、どのようなイベントにしていきたいのか、その実現に必要な仕組みはどうするか、イメージについて皆さんからご意見お願いいたします。

○中西委員：

先ほどの柴田委員からの提案で良いと考えます。本件について、行政のイベントに関して、集客のあり方に工夫の余地があると感じています。

イベントには内容そのものの魅力により参加が促されるものと、他の要因により集客となっているものの2つの傾向が見受けられます。後者の場合、結果として参加者が限定的となる傾向もあり、多くの人に認知されないことが課題となっています。現在予定されているイベントの中にも同様の傾向がみられるため、この点を踏まえた上で検討を進める必要があると考えます。

特にオープニングイベントについては、より多くの方に興味を持っていただけるよう、内容や周知方法の工夫が重要です。

○伊藤委員：

ご意見ございましたが、一方で交流拠点では活動のモデルとなるようなイベントの実施を目指していく考えも共有されました。オープニングイベントは、「この場所でどのような活動が可能か」を示す機会であるとともに、施設を最大限活用した場合の一つの姿を提示するものとして位置付けております。

まずは団体や企業の皆様に「利用してみたい」と感じていただくことが重要であり、そのきっかけづくりとなるような内容としていくことが必要であるとの認識が示されています。

これらの取り組みを進めつつ、今後、関心のある区民の方が来てみようと思ってもらいたい。その先に関心がなかった区民の方々も来たくなることが目的だということが推されています。

○柴田委員：

集客も大事だが、そもそも駅から遠いから区役所に人が来なく、集客はすごい難しいだろうというところから始まっています。

○松田委員：

賑わい創出が目的ではないのではないのでしょうか。

○柴田委員：

一つは区と区民との汽水域。汽水域という言葉が資料からなくなってしまっていますが、まずは区の方々がここを使ってもらわないと、区民との交流の場所にならない、協働の場所にならないのではないのでしょうか。まずは区のイベントを、一旦ここに集めてもらいましょうということで、一生懸命集めてもらった経緯があります。ただおっしゃる通り、区のイベントは堅いので、関係者しか来ない。それはNPOも同じです。地域活動団体も一緒に、関係者しか集まらないイベントがいかに多いことかということです。だから世田谷区民の大多数を占めるマジ

ヨリティの方々が来ていただかないと、本当に私たちが目指している、ここに人が集まるということは非常に厳しいことになります。ですが、そこを目指さないといけません。今ここにはその企画がないというのはおっしゃる通りです。

今日、11月3日のオープニング企画を委員会で検討するのでしょうか。

○伊藤委員：

基本的には実行委員会が企画します。実行委員会についてはまだ決まっていないのですが、準備会でまずディレクションをする人が必要ではないかなど、そのようなお話もありましたので、例えばその実行委員会が実施するのであれば、企画段階から団体の皆様にご参画いただけるよう、運営委員会で内容を決定するのではなく、実行委員会や参加団体の皆様とともに検討し、創り上げていくことが望ましいです。

ですので、11月3日のイベントも含めて、どのように決めていくかということをおある程度考えていただきたいです。

○柴田委員：

11月3日だけではないということでしょうか。

○伊藤委員：

11月3日だけではなく、21日間すべてのイベントをディレクションしていただいた方がいいのではないかと、企画段階から関わりたい方を募集していました。

○柴田委員：

11月3日というのは、まだ企画は決まってないということですね。少し遅いのではないのでしょうか。

○伊藤委員：

急がなければなりません、今日が第一回目の委員会ですので、これから内容を決定していきます。

○松田委員：

汽水域という観点で、団体同士のネットワークを生かした連携が重要だと考えています。これまで子どものケアに関する活動や居場所づくりの催しなどを実施してきましたが、今後は各所管とも連携しながら活動を進めていけるとよいと思っています。一方で、団体側からの共同提案や参画の呼びかけについては実施が難しいと感じています。行政側からの呼びかけであれば参加しやすいですが、団体側から取り組み参画の提案はハードルが高いのが現状です。施設の公用利用との関係も含めて整理が進むと良いのではないのでしょうか。

また個人的な提案になりますが、11月3日の「いいお産の日」に合わせた取り組みを実施したいと考えています。これから子育てを始める若い世代の方々に参加してもらえるような企画を、オープニングイベントの一部として実施できれば良いと思います。

○本田副施設長：

若い世代を代表して何かご意見ありますか。

○岡委員：

そうですね。このオープニングイベントのカレンダーと団体さんの企画を見て、私が当事者でこれを見た時に、行くかどうかということだけで言うと、大変申し訳ないですけど、多分足は向かないと思います。少し堅く、タイトルだけを見て、私がこれを楽しめるのかと思いました。

自分の立場では、子どもがまだ小さいため、土日にとにかく何をして時間潰そうかという悩みがあります。馬事公苑などに行っているのですが、もうやることなく、そういう意味で、何か楽しそうなイベントがやっていないか、子どもが楽しめそうなことないかと模索しています。私は区役所に行くまで時間がかかるのですが、子どもが楽しめるイベントがあれば行きます。

世田谷区というと人口密度が高く、子育て世代の方もたくさんいるため、子どもが主役や子どもが何か発表する、楽しめる場となったら、そこに親は自然とセットについてくる。そうするとやはり人が集まってくるだろうと考えます。そういう子どもを主役にしたような、例えば子どもだけのフリーマーケットや子どもの職業体験とかのイベントなどです。商業施設の運営詳細までは分かりかねますが、商業施設の中のお店が協力し、お店の職業体験ができるイベントには、極めて多くの応募が来ます。子どもに多様な体験の機会を提供したいという意図に加え、保護者自身にとっても有意義に時間を過ごせる場であることから、大変関心があり、ぜひ参加・訪問したいと考えております。これがマジョリティの意見分かりませんが、そういう方が多いではないでしょうか。

○本田副施設長：

いいですね。ありがとうございます。せっかくですので、土屋委員いかがでしょうか。

○土屋委員：

私自身結婚しておりますが、子どもはおらず2人世帯でございます。週末に何してるかという、外出しています。イベントなどがあるため公園に行くことも多いかなと思います。世田谷だと駒沢公園でパン祭りを行っているため、行ったことがあります。

21日間を通じて幅広いテーマで実施する方法に加え、各日ごとにターゲットを明確に設定する運営も検討可能ではないかと考えます。テーマをより細分化することで、集客の向上が期待されます。一方で、区民交流スペースとして多様な来場者の交流を促進する観点や、参加団体との調整も踏まえ、全体のバランスを見ながら検討していくことが重要と考えます。

○本田副施設長：

ありがとうございます。他にご意見いかがでしょうか。

○伊藤委員：

その流れで、先ほど11月に募集をかけた方々が3月4日の資料の中で、今みたいな話を少しいただいています。イベントテーマやキャッチコピーを設定するのはどうでしょうか、という話になり、限定的なテーマとなった場合、参加団体の都合が合わない可能性が生じてしまう。子ども団体ではあるが、子どもをテーマ設定した日に行けない場合、調整も発生します。

○土屋委員：

思い付きで申し訳ありません。「集客」ということだけを考えると、松陰神社からの導線も結構鍵になるのかと思いました。週末は結構若い人たちも多いイメージがあります。例えば松陰神社の近くの、店舗などと当日来てもらえるように調整しつつ、集客のために事前告知を手伝ってもらうなど区役所のより地元の周辺で最初は密に連携してやっていくと集客ができるのではないのでしょうか。

○齋藤副委員長：

そのような意見が出るのをすごく待っていました。色々な準備段階の会議の中で、区役所というと世田谷全体の中の一箇所というイメージではありますが、実は区役所の周りはすでに魅力的な資源がたくさんあります。

区役所の中だけとか、敷地の中だけという発想ではなく、ルートを作ったりとかエリアを考えたりするようなことがもっとあってもいいという意見はこれまでもたくさん出ています。今回はイベント期間が21日間あるため、毎日やらなくてもいいのですが、どこか2回ぐらい区役所周辺ルート上に何か設定したものを皆さんに考えていただくというのは、自分の団体ができることだけを考えなくて済み、考える基盤やベースをこちら側から提供する中の一つに、ルートやエリアを広げて考えることができるのではないかと思います。

以前区役所のイベントで、タイトルがすごくいいなと思ったのは【区役所で遊ぼう】です。子どもたちが区役所に行き、「ここは〇〇です」というように、紹介してもらった内容です。今回は新しいところが少しずつ出来上がっている段階なので、区役所の中をツアーすることと、区役所の周りのエリアについても運営委員会からイベント企画を考えてくれる実行委員会の人たちに提案してもいいのではないのでしょうか。

○柴田委員：

先ほど公園には行くし、遊ぶ場所を探してるっていうお話を聞いて思い出したのですが、以前の経験から、オープニング月間で、スタンプラリーで回っていただくのはいかがでしょうか。

経堂からあるいは近隣から、継続的に通っていただける方を増やすため、イベント内容を紹介したパンフレット等を配布し、来場を促す方法も有効な手段の一つだと考えます。

○松田委員：

そういう意味では、最初から派手に大成功の事例ばかりではなく、徐々に拠点を

育てていければいいのではないのでしょうか。逆に言うと、テストイベントができれば良いのですが、「種が撒けるようなものでもいい」というように、イベントへの参加人数での評価ではなく、ここから始めていく形でいいのではないのでしょうか。大イベントでなくてもいいと思います。

○中西委員：

大きく派手に集客しようという意味でもなく、コミュニティ支援は前から行っております。他の時期に開催しており、11月開催に変更としたためイベント数は増えていません。

小さくてもいいが、岡さん・土屋さんのような区民の方が行ってみたい、少しでも面白そうだから行ってみようと思えるものを少しずつ育てていくことができればいいのではないかと思います。オープニングイベント終了後においても、来庁の目的がなければ来場者が減少してしまう懸念があります。そのため、区民交流スペースを活用して多様な取り組みを試行し、定例化することで口コミによる来場促進につなげていくことが重要と考えます。特に、週末に継続的な集客が見込める企画として定着させていくことを目指し、そうした観点での企画を進めていきたいと考えます。区の部署は多数あるので地の利も活かし、こんなこともやるというのではないのでしょうか。

○本田副施設長：

他にご意見ありませんでしょうか。

○岡委員：

先ほど土屋さんもおっしゃってましたが、パンのフェスなど食をテーマにしたものは、よく町おこしで見かけることもあり、区外の方も含めて結構注目度が高いと感じます。特に世田谷区は本当に魅力的な、個人でやられているような小規模の飲食店が非常に多くあると思います。経堂や下北沢も、色々なお店があり、キッチンカーの事業者が出店しますということはもちろんあるとは思いますが、どちらかというところ「地元のあのお店がキッチンカーを出す」ということに対して、皆さんに興味を注がれるだろうなと思います。せっかく交流活動スペースが併設された区役所ができるため、このオープニングに一肌脱いでくれませんか。世田谷区の方へ直々にお問い合わせしたら、協力したいというお店の方もたくさんいらっしゃるんじゃないでしょうか。やりたいと思ってもらえる方への周知がまだ足りていないと感じます。そこがうまく繋がり、他の店舗も手を挙げてくれると、それだけでもすごく注目度が高くなるのではないのでしょうか。

○伊藤委員：

はい。今後、近隣の商店街や連合会などこの辺に関わる場所にご挨拶に行こうと考えています。この日に設定できなくても、今後お近づきになりたいと思っています。

やはり現時点でアウトラインを整理していただく必要があると考えます。先ほど実行委員会についても触れましたが、早期の発足が必要ではないのでしょうか。ま

ずは、組織立った責任体制を明確にすべきという点が、議論の中で挙げられていたという認識でよろしいでしょうか。

実行委員会の発足について

○本田副施設長：

オープニングイベントを21日間やっていく上で、やはり実行委員会を発足した方が、責任を持ってオープニングイベントをやり通すことができるのではないかとということで提案をしたいのですがいかがでしょうか。

○柴田委員：

どこまで実行委員会が責任を持ってやるのか、イメージが今まだつきません。事業者さんたちがやるのですか。

○伊藤委員：

いいえ、事業者はサポートなので、実行委員会に責任を持ってやっていただきます。運営自体は運営委員会があるので、それに対して部会がイベントのことを決めていただきます。（資料1-2確認）

資料1-2に運営委員会と部会、運営事業者の関係とイベントを開催するときにはそれぞれが連携、協力しながらやっていくということになります。一番の責任は委員会であり、今回実行委員会を設けないと、イベントのディレクションが難しいという話が前回福岡委員から挙げてきたため、まさにその通りだということでご提案がありました。

○柴田委員：

運営委員会で実行委員会を立ち上げるということですか。

○伊藤委員：

いいえ、企画したいという参加者もいるので、その方々を交えた形で、ディレクションできる方がいればお任せしたいと考えています。運営委員会でやろうとしてもなかなか動けないため、実働できる方とディレクションしていく方がいいのではないのでしょうか。実行委員長は運営委員会の意見を聞きながら、実行委員たちの話を聞き、内容を決定してくれる方です。少々重責ですが、やっていただく必要があると考えています。

○本田副施設長：

実行委員長は運営委員会の方から出ていただいた方がいいのでしょうか。

○伊藤委員：

実行委員長の打診を齋藤副委員長へ試みましたが、やはり若い人とかが地方創生や町おこしに携わっており、よそから来た若い人のような方がトップになり、地元の人たちが支えるような文脈もあります。

実行委員会の方もやりたいという人もいる可能性があるため、確認しながら決定

が必要だと思います。ディテールまで決めてしまうと活動しづらくなってしまうため、まずアウトラインとして実行委員会を作るということまで決めたいです。あとは運営委員会の方も関わることは必須とし、併せて実行委員となるなら若い人がいいという話が上がるかもしれません。

実行委員には動きが分かる運営委員会のメンバーがいてもいいのではないかと決めておき、その後、また実行委員会の中で委員長等を決定する流れでよろしいでしょうか。

○曾田委員長：

実行委員会は大人数ではないということでしょうか。

○伊藤委員：

そうですね。募集時に20数団体ほどの中で、企画から関わりたいと言っているのは5団体ぐらいでした。それ以外は自分の団体のPRと何か関われるのであれば関わりたいという団体でした。改めてキックオフ会の時に、企画からやってみようという希望団体をもう一度確認した方がいいのではないのでしょうか。

○齋藤副委員長：

以前、世田谷区の都市デザイン室にいたときに同様に組織横断型イベントの事務局的役割で担当した経験があります。団体は事業に対してそれぞれ課題を抱えています。個々の事業だけでは対応に限界があります。区の立場や仕組みを活用し、様々な主体と連携することで、新たな取り組みの実現につなげていくことが期待されます。実際に実行委員長や実行委員になり、企画をして、多くの人を巻き込んでもらう役割を担っていただけたらいいのではないかと思います。今回は企画からやりたいと希望している声を上げてくださったのはすごくいいのではないのでしょうか。そういう人たちをこの運営委員会がサポートするために、今様々な立場の人がいます。これまでの事例や知見、人材を活用し、利用方法に応じた助言や支援が可能だと考えます。

ただ、その実行委員と言っても、今何人ぐらいかなどフィックスしてないので、それをこれからどうやって呼びかけるのでしょうか。3月に集まってくださった方々に呼びかけるイメージでしょうか。

○伊藤委員：

そうですね。3月の方は当然キックオフ会議に来ていただく予定です。今現在も参加募集継続中であり、募集自体は直前まで可能という話が準備会でありました。いつでも参加できる体制のままであると、また調整が発生してしまうため、一定程度のところ区切りをつけるのは実行委員会の判断であるかもしれません。

○齋藤副委員長：

そういう人たちが、話し合いに臨みやすいフレームを運営委員会で提示できるといいのではないのでしょうか。

○伊藤委員：

現時点ではアプリを活用した情報共有を行うことのみが決定しており、話し合いに臨みやすいフレームについては今後検討予定です。また4月中に第1回キックオフ会議を開催します。参加団体に集まっていたいただき、今後について確認していく必要があります。あとは運営委員会の方が関わっていただける部会の方からもいろいろ支援いただき、団体ネットワークの明示や支援の形があれば、実行委員会がやりやすくなるのではないのでしょうか。

○松田委員：

すみません、それ告知するようなインスタなどSNS発信はありますか。

○伊藤委員：

まだ作成しておらず、これからとなります。

○柴田委員：

情報発信がないと、継続されていることなのかみんな分からないです。もうこの人たちで始まるのかという声も挙がっています。

実行委員会は11月3日のみではなく、オープニング月間の21日間の企画というような提案をしてる。やはり今まで運営委員会の話し合ってきたそのものが、ある程度実行委員会でも伝わらないといけないので、実行委員長になる人は、その経緯をある程度心得てる人じゃないと、参加団体が迷ってしまうのではないのでしょうか。

○齋藤副委員長：

運営委員の人が実行委員になることもできると思うので、私は実行委員にはなりたくないと思っています。

委員長になることは違うかと思いますが、実行委員は今募集中ということであれば、興味はあるため立候補したいです。

○伊藤委員：

はい、ぜひお願いいたします。実行委員長が難しいということであれば実行副委員長はどうでしょうか。だいぶ日程は取られると思います。

○松田委員：

そうですね。夜に集まるのが難しい方もいるのでオンライン会議などのサポートは区が対応されるのでしょうか。

○齋藤副委員長：

事業者がやると思います。事務局は日程の調整だとか場所の確保の対応だと考えます。場所の確保は意外と大事だと思います。

○松田委員：

実行委員会をやる場所が一箇所あっても良いのではないのでしょうか。場所を定めて、参加したいときに来てもらえるようにできるなどです。

○伊藤委員：

その場所がまだ完成しておらず、11月に出来上がります。事務局にてオンライン会議やスラック等を用意したいと考えています。

グループ討議の振り返り

○本田副施設長：

そろそろ時間のため、どのようにまとめるのが良いでしょうか。

○齋藤副委員長：

今まで書いてくださった内容を説明し振り返っていただきたいです。

○本田副施設長：

ではよろしく願いいたします。

○事業者山下：

説明いたします。

そもそもスタート地点は、区役所に人が来ないというところから始まりました。汽水域が抜けてしまったということでしたが、運営事業者としてももちろん汽水域にしていきたいですとご提案させていただいておりますので、そこはご安心ください。

初めて運営委員会に参加いただいた方もお子さんがいらっしゃるということで、子どもと一緒にいける場所は、ご家族として常に探してますというご意見が印象的でした。例えば公園のイベントやパン祭りが挙げられました。具体的に試行で昨年2月に「区役所であそぼう」という企画が開催されました。すべて区役所で開催できない中、実行できる可能性がないと開催が難しく、また本庁舎が完成するとさらに利用エリアが広がり、可能性も広がるのではないかとご意見もありました。

実際どのようにしていきたいかを考えると、全体的な意見として、必ず大きな成功をしなければいけないということではなく、だんだん育てていくということです。テストでもいい、小さくても面白いもの、ロコミでこういうスペースがあるということが広まってほしいとなりました。区役所に来るきっかけになればというご意見がありました。

オープニングイベントテーマの審議のご意見として、例えば、松陰神社からの導線が鍵になるため、周りのエリアを活用する要素やお店に協力してもらい「食」をテーマにもできます。「食」であればお店もたくさんあるため、地元企業の方も一肌脱いでもらえるのではないのでしょうか。あとは11月3日から23日の約1か月オープニング期間のため、11月3日は「いいお産の日」という日に絡めて何かやってほしいというご意見がありました。また新たな取り組みとして、世田谷区は文化財団と組んだ取り組みで「アーティストバンク」が始まり、世田谷

区にゆかりのある音楽アーティスト約30組が登録されたと私も伺っています。アーティストバンクに登録したアーティストにも使ってもらうことで広めてもらえるのではないのでしょうか。

最終的には、大きいイベントを開催するにあたり、1か月間オープニングイベントがありますので、ディレクションしてもらえる団体が必要ではないかという話で、実行委員会の発足について挙がりました。運営事業者としてはもちろん皆様のサポートをさせていただきますが、実行委員や委員長、副委員長といったところは運営委員の方からでも、オープニングイベント参加の23団体の中から企画から関わりたいという団体からも募集してはどうでしょうか。あとは告知について、11月開催に関してまだ参加希望者を募集しておりますので、情報告知も続けてほしいとなりました。

実行委員は立ち上がった際、委員長、副委員長と役職になってきた方ももちろんですが、どのように集まり、どのように進め、既存の運営委員会と部会との役割分担を考える必要があります。11月オープンというスケジュール目標は決まっているため、目標達成に向けての運営人数や、どのように集まってもらうかという話が出ました。以上です。

○本田副施設長：

ありがとうございました。皆様からのご意見をまとめましたので、参加団体の交流会が今月開催予定のため、実行委員会発足に向けて進めていきたいと思えます。

○齋藤副委員長：

実行委員会ができあがるまでのプログラムが現在ないと思えます。例えば実行委員の募集まではよいが、その後の進め方が現時点で整理されていないのではないのでしょうか。一つ提案として、区役所周辺を歩いて回る取組を取り入れてみるのはどうでしょうか。実際に区役所の周辺を歩くことで、地域の状況や距離感を体感できたり参加者同士がコミュニケーションを通して新しいアイデアを創出したりできると考えます。

現在は区役所の敷地が仮囲いで分断されおり迷子になってしまうが、オープニング頃は今より完成しています。今、西側庁舎の方だけ完成しているため、みんなで散策が可能ではないのでしょうか。テーブルに座っての議論だけではなく、現地を体感する導入をぜひ考えたら良いのではないのでしょうか。

○松田委員：

できるプロセスを楽しもうと仕掛ける方々もいても良いと思えます。

○齋藤副委員長：

その通りです。周りの状況や現場をよく理解していないと、アイデアも自分ではしか発想できなくなってしまう。別の視点を取り入れることで、違う団体同士のあの共同イベントや、自分のところで実施していること以外のアイデアが浮かぶと思えます。

- 伊藤委員：
一度区役所で会議や打ち合わせができるよう設定することも大事ですね。ありがとうございます。
- 齋藤副委員長：
はい、そうですね。区役所の中でも実施した方が良いです。
- 伊藤委員：
本日のような会議も見学や世田谷区民会館の2階ラウンジで開催することも考えてみます。
- 柴田委員：
すみません。せっかく土屋さんと岡さんが参加しているので、実行委員会にマジョリティの方が入らないと、全く意見が反映されないように思います。地域団体の人たちが実行委員会の構成メンバーになると、結局地域団体の話になってしまうと思います。団体代表として参加すると、自分たちのやりたいことが優先されてしまう。本当に一般の人が気軽に参加できるのかというところは、いつも立ち返らなければいけないと思っています。
- 伊藤委員：
実行委員長までとは言いませんので、ぜひ実行委員をお願いしたいです。本業があるかと思えますのでスラックかLINEか不明ですが、情報アプリなどは皆さんが見られるようにできると思います。運営委員としてアカウントを持っていたいただきますが、実行委員になっていただくのはありがたいです。情報共有もしながら実行委員にもなってみるといふ冒険をぜひどうでしょうか。
- 中西委員：
無理に齋藤副委員長、柴田委員をお願いするのではなく、一般の方から募集してもいいのではないのでしょうか。
- 柴田委員：
団体だけではなく、一般の方ももし興味のある方がいれば多くの方にご意見いただきたいです。
- 伊藤委員：
今のご意見を参考にし、キックオフ会の参加団体に確認して実行委員会はどうですかと声をかけてみようと思います。記録が残りますので、そちらで対応してみます。
- 松田委員：
ちなみにオープニングイベント月間の平日開催分も一緒に考えられますか。例えばふらっと来た人に説明したり、こういう活動に参加しませんかと声をかけたり実施している方もいらっしゃると思う。土日のことを考えないということでしょうか。
- 伊藤委員：
全日程となります。平日日中に色々と参加できそうな高齢の方たちをターゲット

にした企画も考えてもらわなければいけないと思います。そういったスケジュールや意見とかなどを組み立て、メッセージ性みたいなものを実行委員会にて、問題提起してもらう。課題解決が滞っているような場合には皆様からアドバイスをしていただくということになります。

○本田副施設長：

よろしいでしょうか。交流会、部会を通じて進めていきたいと思います。次が最後の資料になります。資料10-1をご覧ください。こちらは区より説明いただきます。

○伊藤委員：

はい、こちらは令和8年度の区役所庁内の公用事業申込一覧です。公用事業予定がまとまったものとなります。展示などが入っておりますので、ご確認いただければと思います。こちらは調整中の資料ですので非公表とさせていただきます。説明は以上です。

①ーウ. 令和8年度の提案・事業計画のご説明

○本田副施設長：

続いて資料10-2をご覧ください。令和8年度の提案・事業計画のご説明をさせていただきます。

この内容は、いずれも2026年3月13日時点のイメージ案です。今後検討協議の上、調整決定となります。記載内容すべての説明はできませんが、カテゴリーの部分を説明いたします。

まず、広場等を活用した賑わい創出事業です。こちらは様々な団体がありますので、各団体と調整して進めていこうと考えています。次に、研修です。こちらは二つに分けられ、開設前のスタッフに対する研修と開設後のスタッフ、区の職員、一般利用者、区民にも向けた研修を考えております。次に、情報と蓄積と活用です。こちらはエフエム世田谷との連携、世田谷まちづくりアーカイブスの設置を考えております。次に、区民・区職員の交流と新たな活動を生み出す事業です。例えば「今日は〇〇さん」というテーマで、一日誰か出ていただき、年間150日開催したいと考えています。特に区の職員の皆さんには、1/3の50日ほどお願いしたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。「今日は〇〇さん」というイメージは、最後の資料の左下に出ています。このようなイメージでお願いしたいと思います。

次に、拠点や地域の運営者の裾野を広げ参加を流す事業として、特に若い世代の参画や地域コーディネーター研究会をやりたいと考えております。実施内容については各自ご覧いただければと思います。今後さらに調整して進めてまいります。私からは以上です。

○松田委員：

密かにこのネットワークが、様々なジャンルの人たちが集まって会う、裏メニューのように、イベントではなく災害時にまたそれが活かされていくといいと思います。

○松田委員：

熊本では「火の国会議」と言って、会議の最後に集まり、今日どうだったかという振り返りをしており、別ジャンルの人や別世代の人たちが関われる場となっているのが非常に面白いなっていました。

○本田副施設長：

はい。他にご意見ありませんでしょうか。

○柴田委員：

部活動支援について、誰かが主体となって立ち上げるのですか。また区の取り組みではないという理解で良いのでしょうか。最初に手を挙げる人を見つけるのは難しいと考えます。

○本田副施設長：

区の部活動ではありません。施設利用者の中で共通の関心がある場合、施設内の「マッチングコーディネーター」が関係者をつなぎ、活動の提案を行います。

○柴田委員：

「マッチングコーディネーター」は運営事業者が担うのですか。事業者が主導となることで、自主的な活動として定着するのでしょうか。

○事業者栗本：

補足させていただきます。事業者としても自らが主体になったり、事業者で先導したりするような役割は考えておりません。施設は市民活動団体の皆様が主役になっていただく場と考えているのでマッチングコーディネーターは、あくまでも施設の黒子となって、人と人をつなぎ、施設について利用可能な場所であることや利用条件・ルール、理念等を整理した上で、継続的に情報発信していく立場となります。

利用者に伝えたいうえで、施設を利用したいという希望があれば、土俵に乗せて、団体に主体的に動いていただく支援をします。それが表面的になった時、サークルや部活動支援などの形でサポート体制自体を「部活動支援」としており、事業者がコーディネーターとしての役割を担い、各取組において利用者同士のつながりを創出しながら、当該施設を積極的に活用してもらうことを支援いたします。この施設の盛り上げ方自体がマッチングコーディネーター事業として事業者が担っていくものとして、利用者のつながりを作りつつ、利用促進につなげるために事業者は動くと考えております。

○柴田委員：

イメージは何となくできますが、今までの施設管理の方々が取りまとめていくイメージがどうしてもあります。理想とする「できるのかどうか分からないが、チ

チャレンジする」と言っている自治のやり方にそれがなるかどうか、想像ができません。

○松田委員：

シニアの居場所を開催していますが、好きなことややりたいことを書いてるうちに参加者が集まり、けやきネットの会員になっていることがあるため、グループは自然と生まれます。最初は居場所の会場で活動し、自分たちで場所を借りて活動したいという方々が誕生することを実感しています。逆に言うと、一人で来る人が受け入れてもらえる場が増えるということではないでしょうか。団体の人たちが「皆さん来ませんか」と勧誘するのではなく、施設に来てからやりたいことや仲間を探している方に対して出会いやつながりを提供するイメージを持ってる場所であると聞いています。

○伊藤委員：

区側の意見として、コーディネーターのプロフィールや写真が掲示され、施設出勤の有無が分かり、コーディネーターの特性も大事だと思います。熊本の話もありましたが、社会的課題の何を話ししているのか、参加しやすい工夫が必要なのではないのでしょうか。施設に集まっているが、何を話しているか分からない場合、希望の話ができるグループを教えてもらえる空間が良いと思います。活動の誘致や、議論している方々が、ふらっと来た人たちにも入ってきていいという呼びかけにつながればいいと思います。

こんなテーマで活動しているこの人やこの団体は今日いるんですかという照会を施設の中でできると面白いと思います。あとは団体さんが集中して議論したい時、話しかけてほしくないなという時もあると思うので、「今は話しかけていいですよ」という掲示が表示できるのもいいのではないのでしょうか。またこの近辺の課題解決のテーマで議論が盛り上がってくると、なおさら熱量が上がってくるだろうと期待をしています。

○松田委員：

団体が育つこともあるかもしれないが、実行委員会がそこで立ち上がることもあるかもしれません。今度こういうことをプロジェクトでやろうという実行委員会の集まりに誘致や、逆にサポートを依頼することもできる。まず団体として活動してもらおうようにしたい。

○柴田委員：

非常に前向きでいい話し合いだと思いますが、私たちは、市民団体カラーを出しすぎてしまうので、岡さんや土屋さんにもふらっと来ていただけるような施設へ、トレンドを踏まえたデザインにしてほしい。区役所らしい雰囲気ではなく普通の民間施設のようなイメージにしてもらわないと、入りにくいです。一人で来てふらっと入れるのかなと心配になり、中に入ることができない。

○松田委員：

受付カウンターはどうなっていますか。

○柴田委員：

事業者の受付カウンターがあります。カウンターで待っている人や上の階に行く事業者もいるし、スーツの人も絶対座ってると思います。施設の中に入りにくいので、入りやすい雰囲気にしてほしいと思います。切なる願いです。

○中西委員：

ちょうどその点についてお話ししようとしていました。入口というより奥の部分に関する内容となり、入口部分についての整理や検討が十分にできていないため、柴田委員のご指摘はもっともだと思えます。装飾などの工夫だけで、どこまで入りやすい雰囲気をつくることができるかという疑問があります。

例えば、松田さんの前で少し恥ずかしいですが、子育て広場があれば施設に来るのではないかと思います。しかし、子育て広場はないため、やはり目的がないと施設に来ないと思います。広場があれば訪れ、隣で趣味活動をしている中で接点の生まれるように、またコワーキングスペースで、ノマドワークができる人は限られているのかもしれないが、たまに区役所で「あそこは雰囲気がいいからそこで働いてみよう」という人が仕事をする中で、市民活動と出会う。汽水域とはそういうことではないでしょうか。

施設で職員が働いてて、市民活動団体と出会う、「何やってるんですか」という話ができる雰囲気にしないとその先の話は誰もいない状態ではできない。具体的な進め方や方策について運営委員会の中で議論できるとよいのではないのでしょうか。オープンまであと6か月しかありません。次、運営委員会は8月のため、大急ぎでやりたいと思っています。

○柴田委員：

交流拠点は、既存の施設とは異なる新しい在り方を目指していきたいと考えています。運営委員会についても、事後的な意見交換の場ではなく、企画段階から参画し、今後の方向性やランドデザインを描く会議にしていく場として位置付けたいです。また管理的な運営に偏るのではなく、誰もが気軽に立ち寄れる奮起雰囲気づくりや区役所らしさに捉われない柔軟な空間づくりを期待します。

○本田副施設長：

はい、ありがとうございます。

○松田委員：

区の職員は下に降りてきて、業務ができないのでしょうか。せっかく一人1台、Wi-Fiを持っているのであれば施設に来てほしい。

○齋藤副委員長：

一般的な会議はもちろん個室でやっていただいて結構ですが、今後の企画等についてフリーディスカッションして検討する際には、会議室に限らずオープンスペースを活用して実施することも可能だと思います。

運営委員会としては全力で応援したいと思います。汽水域のムードがどのように具体的に作られるか、このオープニングイベントで実験をしてみたいのはいいのではないのでしょうか。オープニングイベントのことを考える実行委員会の中の議題提案は、運営委員会ですると思います。

みどり部会で、すでに屋上緑化のことや、切ったケヤキの木を利用方法など、様々なことが進んでいます。交流スペースの室内の備品は、今は机と椅子なども量販されたものを使用しているため、見たことある空間になると思います。多様な人が出入りする空間においては、人の多様性に加え、植物やクッション等の設えや、利用者が活用できる小道具の配置なども重要であると考えます。こうした要素については、オープニングイベントを活用し、試行的に検証していくことが有効ではないのでしょうか。

そういう点は実行委員として発言した方がいいと思っている次第です。

○柴田委員：

前回もお願いしておりますが、JCDの関与も踏まえ、より関心を引くキャッチコピーを検討いただきたいです。現時点で一定の方向性が示されると望ましいです。一般の方々に訴求する観点から、各イベントにおいて魅力的なキャッチコピーを設定し、民間の視点や感覚を積極的に取り入れていただくことを期待しております。

○中西委員：

区としてもキャッチコピーを一方向的に定める意図はございません。専門的な視点をお持ちの皆様から、魅力的な提案をいただきたいです。

○事業者 栗本：

イベントのキャッチコピーについては、最初に手を挙げた団体が主体的に決めていく形が望ましいのではないかと意見も出ています。商業的な観点からキャッチコピーを設定する戦略も一つあるとは思いますが、参加者の能動性を踏まえつつ、必要に応じてエッセンスとして助言するなど、後方支援的な関わり方でトライアンドエラーを重ねていく形でよいのではないかと考えています。

○中西委員：

主体的に取り組むことに加え、専門的な視点や工夫も重要であると考えますので、その点については遠慮なくご提案いただければと思います。

○曾田委員長：

そろそろ終わりのお時間です。

○松田委員：

施設の備品や使える物品のイメージはありましたが、もし実際に決まってるものがありましたら、なるべく情報共有してほしいです。ホワイトボードでもどのようなデザインが何枚あるなどみんな知りたいと思っています。

○伊藤委員：

これから入札となります。資料に入っておりますので、ご確認ください。

○松田委員：

多少奥の事務室にみんなが入り、受付の人たちが座っているカウンターではあまり意味がないということをお伝えしました。

○伊藤委員：

現時点では難しい状況です。受付以外の場所で相談することはできます。受付で立ったままということは考えていません。

○齋藤副委員長：

仮設移動式カウンターというものを導入はいかがでしょうか。交流スペースのあり方についてはこれまでも示されているとおりで、固定的な区切りを設けない形が望ましいと思います。机については軽量で移動しやすいものとするので、カウンターとの境をなくす工夫ができるのではないのでしょうか。この点はこれまでもお伝えしているとおりで、必要な要素だと思います。

○曾田委員長：

皆さんノーマイクでフリートークになってきました。今日は、議論の形式を変えてワークショップ形式にしたのは大成功だと思います。あとは、会場の後方に着席している運営委員ではない関係者の方たちにどうやってこちら側の議論に入ってもらうかが重要ですが、そのためには象徴的な意味で何か考えた方がいいかもしれないです。また運営委員会としての課題も見えてきました。あるいは実行委員会が必要だが、これは、どういう形になるか、まだ分かりません。これからやれる方法を考えていくこととなります。松田委員のおっしゃるように、最初から100%、100点を前提とするのではないかたちで、オープニングイベントも、それ以降のオープニング月間も考えていくということでしょうか。それでは次回の運営委員会ですが、8月を予定しております。日にちが決定しましたらまた改めて周知させていただきます。では、今日の運営事業委員会を終了いたします。皆さん、どうもありがとうございました。